

第19回宇宙開発委員会（定例会議）

議事次第

1. 日時 昭和50年7月16日（火）

午後2時～4時

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題

- 昭和50年度8～9月期人工衛星等の打上げ計画について

説明者

東京大学宇宙航空研究所教授 森 大吉郎

宇宙開発事業団副理事長 松 浦 陽 恵

〃 打上管制部長 榊 博

4. 資料

委19-1 第18回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

委19-2 SESノート№467 K-100-5の実験

委19-3 Nロケット1号機による技術試験衛星I型打上
げ計画書

委19-4 Nロケット1号機による技術試験衛星I型の打上
げ及び追跡管制について

第18回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

1. 日時 昭和50年7月9日（水）
午後2時～4時

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題
(1) 安全部会報告について
(2) ESAとの行政官会議について

4. 資料
委18-1 第17回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨
委18-2 Nロケット1号機の打上げに係る安全対策について（報告）
委18-3 欧州宇宙機関（ESA）との行政官会議について
委18-4 エード・メモワール

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

委員

委員

委員

説明者

安全部会第一分科会長

第二分科会長

山 泉 昌 夫

網 島 毅

八 藤 東 禧

斎 藤 成 文

足 田 強

（代理：秋葉）

山 内 正 男

関係省庁職員等

科学技術庁事務次官

研究調整局長

宇宙開発参事官

通商産業省工業技術院総務部長

運輸省大臣官房参事官

気象庁総務部長

海上保安庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

宇宙開発事業団システム計画部

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

宇宙国際課長

久良知 章 悟

伊 原 義 徳

山 野 正 登

仲 矢 鍛

（代理：木村）

横 田 不二夫

（代理：菊地）

宇都宮 寛

（代理：高谷）

兼 松 曉 昭

（代理：佐藤）

市 川 澄 夫

（代理：荒）

黒 田 泰 弘

平 野 陸 弘

上 島 史 郎

松 原 伸 一 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第17回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨が一部修正のうえ確認された。

(2) 安全部会報告について

網島毅安全部会長、足田強（代理：秋葉）安全部会第一分

科会長及び山内正男安全部会第二分科会長から、資料委 18-2 に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、報告が了解された。また、本報告書は事務局から宇宙開発事業団へ伝達することになった。

八藤：作業手順書等の手直しが打上げ直前に行われるようなことになるとう末端まで徹底されず、かえつて混乱のもとになるため、この辺をよく考えて手直しは行う必要がある。

黒田：基本的には G T V で終っているが、最終的にはこれから予備試験を行い、そののち行う。

山県：警戒区域の設定について、宇宙開発事業団と東京大学とで考え方の異なる点はあるのか。

秋葉：液体ロケット、固体ロケットの相違によつて、影響の現われ方が異なるが、宇宙開発事業団、東京大学の両者とも、爆風圧や飛散物を考慮して、警戒区域を設定している。

今回の審議において、固体推進の等価爆薬重量への換算係数を国内法で定めるとおり 50% とすることなどにつき合意に達したと思われるので、東京大学の現行警戒区域が今回の審議により影響されることはないと考える。

(3) E S A との行政官会議について

事務局から、資料委 18-3 及び委 18-4 に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

八藤：エード・メモワール 4、(4)の日本側の発言に対する E S A 側の反応はどうか。

事務局：はつきりした回答はなかったが、異議はないもようであった。

山県：内之浦で欧州の人工衛星を追跡したことはあるのか。

斎藤：幾度か協力を依頼されたが、内之浦の装置では能力的に不足なので、その経験はない。

E S A では日本がこの面で協力することを望んでおり、宇宙開発事業団は良い装置を持っているので、電波の使用に関して法的な問題は³⁷あるが、協力を進める方向で検討してほしい。

また、^{宇宙開発}計画にも国際協力の推進とあり、^{どうなっているか}できやすいところから手をつけてゆくべきである。